

「ふるさとを語る」

私は、平成11年に皆さん方のご協力をいただきまして、どうにか市長選に当選しました。その前は民間で、こことは全然関係のないような、いわゆる「はちみつ屋」をやっておりました。

市長になってから約1か月、行政について朝から晩までレクチャーを受けましたが、何が何だか分からない。そこで、行政や財政に関する辞書を買って勉強しました。皆さん方が持っている「フレッシュャーズ・ブック」も読ませていただきました。

行政は、4月1日から始まり1年間通してこない、なかなか分からない。1年が終わりますと、次の1年が始まり、ずっとその繰り返しです。

所属が変わりますと、また新しいところから始まりますので、先輩や上司によくお聞きしながら、頑張っていたきたいと思います。

今日の講話は「市町村新入職員研修」ですが、「ふるさとを語る」と題し、ちょっとリラックスも兼ねまして、お話したいと思います。

「さて、お立ち会い。御用とお急ぎでない方がございましたら、私の話をゆっくりと聞いておいで。」「遠出山越え笠のうち、聞かざるときは、物の文色（あいろ）と理方がわからぬ」。こう申しますが、「遠くで見てたり、人の肩越しで見ているのでは、何が何だかほとんど話が分からない」というのが、香具師（やし）口上でございまして、大道芸でやるわけです。

「今日、わざわざ持ってまいりました。はい、ここに取り出したのは、藁蟬噪（ひきせんそう）は、四六のガマ。何だ、そんなガマだったら、家にいっぱいいるや。冗談じゃないんだよ、おじさんたちは。そんなものはね、五六のガマとって、薬実、薬効がない。これは四六のガマ。四六、五六のどこが違うかと言ったら、前足の指が4本、後足の指が6本」。1年のうち、3月の時にこう言います。伊吹山の住民、山へと登り詰め、車前（おんぼこ）という露草を食らい育ったガマを、四面鏡張り、下は金網敷きの中へと追い詰め、小心者のガマが、己の醜い姿が鏡に映って流す油がタラーリタラーリ。柳の枝は1尺5寸、三七 二十一日間これにかけまして、じっくり煮詰めましたのが、ガマの油でございまして。皆さん方が、やれ転んだ、打ち身、擦り傷、かすり傷。冬になりまして、ひび、あかぎれ。一度つけてみてください。その日からピターと治るといのが、このガマの油。

尾籠（びろう）な話をするようですが、痔のお方、痔にもいろいろございまして、切れ痔、いぼ痔、痔ろう、脱肛、一度つけただけでピタッと治るのが、このガマの油であります。私がこう言いますと、信じない方がおありだと思えます。「痔の悪いお方、前へ出てきてください。ただし、男性は断る。女性だけ。

年齢に制限がある。18歳から25歳まで」。こんなことを言いますと、今、男女共同参画に引っかかってしまいますけど、昔はこうだったんです。何と言っても、このガマの油というのは、血止めの妙薬。これをやっていますとこれだけで終わってしまいますので、刀で半紙を切りまして、1枚が2枚、2枚が4枚、吹き上げますは、嵐山は落花の舞ってパーとこうやる。そして、「もう人生が嫌ななった、あるいは腕の1本も要らない方、指はどうでもいいお方があったら、はい、出てらっしゃい、すっかりと戻してあげるからって」。後で自分の腕を切り、傷口を見せながら、「これを塗ると、ほら、このとおりにきれいに治っているのは、ガマの油でございます。本来ですと、百貨店へ行きますと50銭のところ、今日は出張っての出張販売でございますから、特別、30銭で皆さん方にお分けしております。」

こう言いながら、ガマの油を売っていた時代があったんです。こう話すと、話し方が非常に良くなる。皆さん方に、ガマの油を練習しろとは言いませんが、話すときにアクセントをつけながらしゃべることも勉強していただければ良いと思います。

今の若い人達は、隣に座っていても、言葉話すのではなく、メールで挨拶をするなど、コミュニケーションが下手になってしまった。しかし、皆さん方は公務員となり、今度は、住民の皆さんと話をし、理解してもらうために色々なことが話せるよう努力していただきたいと思います。

本題に入りますが、行政は「やりがい」を作ること、街をつくっていく。自分の街をつくる場合どの様な方法がありますか。それをお手伝いするのが行政ではないかと思っています。いろいろな民間団体が町おこし、村おこしをやろうと活動していますが、行政は非常に大きなお金を持っているので、私が先頭を切ってやるべきと思っています。

よく言われます福祉・環境・教育、これらもすべて行政です。皆さん方は住民の代弁者で、公僕でありますので公平で平等でなければなりません。

街づくりはよく、若者・ばか者・外者って言われます。若者は合っていますが、本当にばかになれますか。あるいは、外から見えてきた目で仕事ができますかということですか。

行政に慣れてくると、住民の方が皆さん方のところへ来て、「ぜひ、こういうことをやってください。」と頼みに来るんです。そして、皆さん方が国や県に申請等をして、許可が下りる。すると、住民の方は、皆さん方に、「やっていただいて、ありがとうございます」となります。これは、ただ皆さん方が代行しただけなんです。ところが自分がやってやったようなつもりで錯覚してしまう。これを繰り返すと、だんだん自分が偉くなった感覚になる。一番悪い行政マンは、「おう、やってやる。持ってこい」。ということになる。私たちの仕事は、

住民の方々を代表してやるだけの話であることをずっと忘れないようにしていただきたいと思います。

ここに、長野県と諏訪市の人口ピラミッドがあります。両方とも65歳前後の団塊世代のお子さんが、40歳前後に多く見られ、今、この世代がお子さんをお作りになっている。その後の世代は減っていますので、生まれてくるお子さんが減り、本格的な少子化が始まることとなります。

長野県は長寿県と言われますが、75歳を超えた方が長生きしますので、人口ピラミッドはかなり頭でっかちになると思いますので、予め対応を考え、それらを政策に組込んでいくこととなります。

人口ボーナスと人口オーナスという言葉があります。今、中国が焦り始めているのは、ちょうど日本と同じような人口形態になってきているからです。時間差はありますが韓国も同じ状態です。今後、生産年齢人口が減少しますので、人口オーナス、つまり現役の労働世代が少なくなることで、経済へマイナスに作用する状態になってきます。

逆に、フィリピンやインド、ベトナム等の人口ピラミッドは三角形ですので、生産年齢人口が増加し、若い力がどんどん育って社会が発展することが予想されますので、これから人口ボーナスが始まるということです。そして将来的には、日本と同じような成熟した社会に移っていくこととなります。

日本で少子化が起こっているのは、有効な対策を行わなかったからです。

その点、アメリカは非常にうまくやっています。今、フランスの少子化対策が非常にうまくいっているのは、少子化対策にもものすごい優遇措置を行っているからで、これは、100年かけて少子化を解決してきたからです。韓国や中国は今後、人口オーナスを真剣に考えていかなければならない時期にきています。

次に未婚者数ですが、人口ピラミッドを見ると、生まれた時は男女とも大体同じぐらいです。これを、平成17年度の国勢調査による未婚者数で見ますと、20代、30代は男性の方が女性より多い。男性は県外の大学等へ行っても跡を取らなければならない等で帰ってきているのか、女性は独立心が強く帰って来ないのかと。6市町村の未婚者も、女性から男性を引くと全てマイナスになることから、男性はそのことを知っておいていただきたいと思います。

昨年、半田の山車祭りを見に行きました。5年に一度の祭りですが7回目ということで、31両の山車が集まり、すごかったなと思っています。そしてその中に、立川和四郎作というのがありましたが、昔、立川和四郎という方がおりまして何代も和四郎を襲名してきたのです。

若い兄ちゃんが私の法被を見て、「ああ、諏訪から来られていますか、立川和四郎、初代より2代目の方が作りが繊細ですね」って言うんです。何を言っているのかなと。

立川和四郎は諏訪の出身で、山車を造ったり、あるいは宮大工のようなことをやっていた訳です。元は塚原といいまして、高島藩のおけ職人をやっていた。立川和四郎 13 歳のとき、「もう自分の才能は、ここでは生かしきれない」ということで、江戸へ出て転々とし、最後にたどり着いたのが、立川流という宮大工のところでお世話になりました。

諏訪生まれ、信州の若者ですので頭が良かったんでしょう。そして、手先が器用で、そろばんが上手、腕が立つから、めきめきと頭角を現しまして、やがて棟梁といわれるような頂点に立ってしまう。その後、江戸で何の不自由もなく暮らしていたある日、「私は、諏訪へ帰る」。さあ、周りの皆さんがびっくりしまして、「なんで、わざわざ諏訪へ帰るの？」と聞きますと、立川和四郎が言った言葉が偉かった。「私は、諏訪が好きだから」。こんな言葉を言えるのは、立川和四郎か山田勝文かと私は思っています。

そして、諏訪へ帰ってきますと、近所に十王堂という「えん魔様」ほか 10 人のご家来を祭るかなり大きなお堂がありまして、そこが建て替え期に来てたんでしょう。地域の皆さん方がお金を出しまして、立川和四郎という若いのに造らしてみたらどうかと言うことになった。諏訪には大隅流っていうのがありまして、その中へ立川流という新しい流派が入ってきたわけですが、比べてみますと彫刻が悪い。立川和四郎は、もう一度彫刻を勉強しようと江戸へ出て、そこで修行を積みまして諏訪へ帰り、今度はどんどん仕事を始めたそうです。

諏訪大社には、秋宮・春宮がありますが、春宮は大隅流、秋宮は立川流で造る。これは、両方が競い合いながら工事をしていたという時代です。大隅流は、昔からの流れでずっときています。立川流は新しい流派ですが仕事をどんどん増やしていった。なぜできたかといいますと、工房を作っていたわけです。仕事を精査し画一化し、職人誰もがができるような工房です。そして最後に、立川が監修する。それが、先ほどの山車になっているわけです。

ただ、隆盛を誇った立川流は、今は無くなってしまいました。今は、立川義明さんという方が彫刻をやっておられるとのこと。大隅流は、いまだに諏訪の中の何社にも、綿々と宮大工の系列が流れてきています。どちらがいいのか時代によって分かりませんが、こうした時代があったという訳です。私は、非常におもしろいと思っています。

他に、新村英一という人がおりました。この人も諏訪で生まれ育った人で、ニューヨークへ行きまして、ダンスで非常に活躍された方です。明治 45 年、15 歳で東京へ出ましたがなかなかうまくいかなかった。で、諏訪へ帰ってくると、もう自分の家が落ちぶれてなくなっていた。さあ、それだったら、おじさんを頼ろうと大正 7 年に、横浜港からシアトルへ旅立ったと言われています。

木こりをしたりし、お金を稼ぎ、おじさんに会おうとシカゴへ行くと、おじさんは倒産し、もうアメリカにいなかった。さあ、困ったということでその後、ニューヨークへ移った。

当時のダンスパーティーの会場は、東洋人が入れる場所と入れない場所があったといいますが、会場でダンスを踊っていると、新村のダンスは非常に上手と言われました。しかし、踊っていても、むなしさだけが残ってしまう。そこで一大決意をし、本格的にダンスを学んでみようといろんな方々に付きまして、ダンスの世界へどんどんと投じていったということです。ブロードウェイで初めてのショーが非常に受けたということです。後に、ヨーロッパへ遠征したり、あるいはアメリカ各地を回っていたという人物です。

彼は、日本のニジンスキーと言われたそうで、コンテンポラリー・ダンスから始まって、いろいろなものをやる。多分、今の時代に現れたら、EXILEが何かということじゃないかと。スタジオはカーネギーホールにありまして、当時、非常に東洋的だということで、教師が20名、生徒は1,200名いたとのことでした。

その時期に戦争があり日本が劣勢になった中で、警察の方が来て「あなたは、どっちを応援するんだ」と。「私は日本人だけど、戦争については、どちらを応援するわけではない。ただ、自分の生徒が犠牲になるようなら私は立ち向かう」こんなことを言って、許されたわけです。その後もアメリカでずっと活躍されまして、この写真がスタジオ61という場所で、新村さんが使っていたスタジオです。これはカーネギーホールで、一時、壊されるとなった時に、反対運動を行い、今も残っていると聞いています。

これは、奥さんのリサン・ケイさんが踊っている写真ですが、リサンが亡くなった翌年の2007年に、私たちがニューヨークへお骨をもらいに行こうということになりました。ここにも書いてありますが、「私の遺体を火葬し、灰は二つの壺に分けて入れ、その上に、「He loves with and dance partner of Eiichi Nimura」と記してください。

もし皆さん方が結婚され、最後、亡くなったときに、「最愛の妻であり、そして新村英一のパートナーだった」と、すてきな言葉が書けますか。私は、いいなあとと思います。そして、遺言状では弁護士に、これを日本へ持って行ってくれとなっていました。その後代られた弁護士が「高齢のため日本へ持っていくことはできない。だから宅急便で送る」と言うので、「では、私どもが取りに行きますから」と言って、新村さんの灰を持ち帰り、お墓に埋葬させていただきました。

今、新村さんの偉業を基に「小さくても大きな賞 ニムラ賞」を作り、行政も支援しながら、色々な方々に賞を贈り、長く引き継いでいこうと考えていま

す。

諏訪市の宣伝になりますが、次の写真は諏訪湖の花火大会で、湖上花火大会は8月15日に行いまして、新作花火大会を9月7日（第1土曜日）に行いまして、ぜひお越しいただきたいと思っています。また、サマーナイトファイヤー・フェスティバルもやっております、8月に入りますと毎晩、9月8日（日曜日）のフィナーレまで毎晩行っています。15分程度ですが、ぜひ見に来てください。

諏訪湖の花火が非常におもしろい理由は、市職員の若手が花火班を作り、自分たちでプログラムをある程度決めていくからだと思います。そして昨年からは、ミュージック花火を始めました。「Shall We Dance?」。シャル、ウィー、ダンス、ドンドン。この様な感じで上げてみようとしたところ好評でした。最後に、「Kiss of Fire」となり、ナイアガラがザアアッと下りてくる。昨年は、私の友達でジャズ・ギタリストの吉田次郎さんがナイアガラを背に、「夏の思い出」をジャズっぽくアレンジし、フィナーレとなりました。

私は若い人達に泣かせる花火をやろうと。映画を観たり何かを見ていて感動し、最後に涙が止まらない。そんな花火大会にしようよと日夜頑張っていますので、ぜひ一度見に来ていただき、「ああ、市長の言ったことはほんとだな」、「何だよ、違ったな」などと言っていただければありがたいと思っています。

そして諏訪地方は何と言っても御柱があります。前回の諏訪大社の御柱には、約13万人の人が来てくれました。この御柱は、山から木を引き出しますが、ほとんど人力でやります。引っ張る綱も自分達で全部編み、みんなで引っ張ってくる。また、それぞれの神社の一つずつ、一の柱、二の柱、三の柱、四の柱を建てるわけですが、何のために御柱をやるのかは誰も知らない。今から1,200年前の文章に、既に御柱が始まっていたとありますが、何のためにやるかという記述はありませんので、誰も分からないということですね。

諏訪大社が終わりますと、あと小宮というところがありまして、小さなところのお宮へ、全部4本ずつ建ててまいります。そして、自分の家に「ほこら」がありますと、「ほこら」まで小さな御柱を引っ張ってきて、4本建てるということになります。これは、知事さんと一緒に建てた時の写真です。

それから、諏訪の神様は、実は、出雲の国から「けんか」して逃げてきた神様。その神様が神無月のときに出ないよう、この土地へ結界で封じ込めたという説もありますが、私はそちらのほうが正しいんじゃないかと思っています。

また、諏訪の神様は相撲を取ります。相撲を取って三方を切ります。これは、鹿島、香取、諏訪。関から東の三大軍神といい、戦いの神様に感謝します。そして、諏訪の神様は、鹿島と香取に負けたということです。ですから、私達の神様は、負けてきた神様。それがこの地の神様と融和して、諏訪大社という形

で残っているとのことでした。

それから、民間が中心になり「上諏訪街道21」を結成いたしました。国道20号線は甲州街道と呼ばれますが、上諏訪へ来るのであれば上諏訪街道でもいいのではないかとということで、二十数名で一生懸命やっていますが、最終的には、上諏訪街道21を立ち上げて「呑みあるき」やろうということです。先輩方に助けていただき私が立ち上げましたが、初めは非常にうまくいきましたが、始めますといろんな利害が絡み非常に難しい。最初は2日間やって百数十名で、500メートルの間を歩いている人はほとんどいませんでした。これが、次の年になりますと、口コミでさっと広がり倍ゲームに、そして倍々ゲームになりまして、現在は3,000名の方が、お酒を飲みに来てくれます。

ぜひ皆さん方も2,000円を持って飲みに来てください。「おちょこ」をもらい、五蔵を歩きながら飲み比べてください。また、女性のグループが非常に多いので、まだ増えると思っています。

この五蔵の飲み方を私なりに決めています。初めに「真澄」を飲んでください。これは信州が生んだ天下の銘酒「真澄」でございます。今、お客さんが一番多いのではないかと、おいしいお酒で万人が好むお酒です。次に「舞姫」を飲んでください。「真澄」よりちょっと値段が上がった味を楽しんでください。次に飲んでいただくのは「本金」です。これはちょっと今までと味の毛色が変わったお酒になっています。箸休めで飲んでください。次は「横笛」。ちょっと小さなお蔵ですが、お酒を飲むと「こうじ」の匂いがふわーとしてくるおいしい酒です。最後は辛口の「麗人」を飲んでみてください。日本に辛口はたくさんありますが、飲んで喉の奥まで辛いというのは「麗人」です。こうして五つのお酒を飲み比べてみてください。

昨年、中国大連金州新区と、相互交流促進都市協定を結ばせていただきました。平成14年に中国の工場を見学に行ったところ上海に台風がやって来て、上海へ帰れなくなってしまった。そこでもう1泊し、大連市の皆さんと2日続けて宴会を行ったところ、仲良くなり、それから10年間交流が続いています。

この写真は、アンボワーズ。ここは、フランスのパリから南の方へ約1時間行ったところにある市です。ヴェルグルとクンドルは、オーストリアのチロル地方にある市と町で、それぞれ姉妹都市を締結しています。人口は、アンボワーズが1万2,000人、ヴェルグルが1万3,000人で、クンドルは1万4,000人と小さい町です。

アンボワーズは細い路地が入り組んで、電柱がない。行って見ますと、軒下に電線が垂らしてある。日本では許可にならないと思いますが、これによって街並みが保たれている。多分、電気が来るよりも、自分たちの街の方が早いんだぞと主張しているのではないかなと思っています。

また、至るところにオープン・カフェがあり、コーヒーを飲んだり、お酒飲んだり、ビール飲んだりしている。ぜひ諏訪でもやりたいと思っていますが、なかなかできません。また、アンボワーズでは、諏訪通りと命名した通りを作っていたきました。

次に、ヴェルグルですが、とても良い街並みで、造りがヨーロッパ的です。スーパーマーケットにはワインが非常に多い。女性の市長で、決選投票で市長になった方です。

最後は道路事情です。交差点の信号機をやめてロータリーにし、車をぐるりと回してどちらに行くという方法です。前に伊那市さんが初めてやりましたが、諏訪市はどっちが良いか考えています。

また、道路に曲がりやでっばりを設け、対向車が来たらスピードを落とすようになっています。道路は、人が第一優先で歩くところですから、車はちょっとご遠慮をしてくださいということですね。これから日本も考え方が変わってくるかなと思っています。

時間が無くなってきましたが、皆さん方とはとにかく元気にやりなさいと。元気があれば何とかなる。そして、やる気を持ってやってください。元気・やる気・根気、それらをもって頑張っていたきたいと思います。そして、これから色々な仕事を処理する中で必ず失敗します。私も顔がサーっと青くなるような失敗を何回もやりました。でもそれは、仲間同士で助け合い、または上司や先輩とよく相談しながら進めてください。

それからもう一つ、仕事に慣れてきますとクレーマーが増えてきます。ただ文句を言うだけに来る方がいますので、その時は1人で背負わず、必ず複数で対応すること。そうしないと自分の心が病んでしまう。そして、先輩や上司に相談する。報告・連絡・相談を忘れないようにやってください。最後に、どんなに困っても、命までは無駄にしないようにしてください。ありがとうございました。

日 時	平成 25 年 4 月 18 日
場 所	諏訪市 諏訪合同庁舎
研修名	新規採用職員（前期）研修 諏訪会場
講演者	諏訪市長 山田勝文氏
主 催	長野県市町村職員研修センター